

浦高同窓会の『麗和』を探る!

●浦高同窓会活性化検討委員会を終えて!

昨日は午後3時から浦高麗和会館にて、「第7回浦高同窓会活性化検討委員会」が開催され、9名の委員が参加して2つの小委員会での検討経過について確認を行いました。

浦高同窓会では、28年度から木村恵司会長体制になり、同窓会活動の活性化を図るために副会長と常任理事を中心として浦高活性化検討委員会を設置して議論を進めてきました。28年度には3回、29年度も3回にわたり議論を重ねて、当面、2つの小委員会を設けて検討を深めることとし、5月の同窓会総会でも報告したところです。

◇ ◇

(1) 浦高ビジネス人材ネットワーク検討小委員会

ここでは、浦高卒業生の人材ネットワークを構築して、若手ベンチャーなどで起業する人たちの支援を同窓会で行っていくためのシステムづくりを進めようという内容で協議が進められています。特に、数年前の浦高生の不慮の事故に際して、さまざまな専門の浦高OB医師たちがそのネットワークを生かして救ってくれたこともあり、医療面をはじめとしたネットワークの必要性を痛感しました。

(2) 浦校同窓会法人化検討小委員会

ここでは、年間5千万円規模の予算を動かしていることもあり、対外的な信用を得ていくためにも法人化を検討しようというもので、一般社団法人を目指して協議が進められています。

◇ ◇

昨日の会議では、この2つの小委員会の検討経過を踏まえて、11月3日に開催される常任理事会(正副会長と常任理事、30名)に報告する内容が議論されました。

私も「浦高同窓会法人化検討小委員会」メンバーの一人として議論に参加してきた者として、活性化検討委員会の皆さんがどのように理解してくれるのかと不安と期待をもって臨みました。

浦高ビジネス人材ネットワーク検討小委員会の検討経過を伺うと、人材データベースとして職域同窓会の育成が大きな鍵を握っていくようで、なるほどそういう方向に進めていくのかと感心しました。また、当初はマッチングシステムのイメージが強かったのですが、今回の報告を伺って「同窓」をキーワードとした人脈づくりによる人と人をベースとしたネットワークづくりに力が入っていくようで分かり易いものになりました。

浦高同窓会法人化検討小委員会の検討では、現在の同窓会組織を大きく変更せずに法人化を図るというところでまだまだ多くの論点があるようです。

そんな議論の中で、地域職域同窓会同窓会の名前にある「●●浦高会」と「●●麗和会」について話が及びました。正式名は「埼玉県立浦和高等学校同窓会」であるものの、会報名は『麗和』。誰もが不思議と感じないものの、何で

「麗和」なのかと私も疑問に思ったことがあります。先輩の鳥井隆一郎さんに尋ねると、浦高百年誌

『銀杏樹』(平

を貸してくれました。その『雄飛編/浦中・浦高百話』の中に次のような記事が…。

◇ ◇

■麗和会雑誌

明治34年の創刊号から今井校長の「追悼号」まで/浦中草創の時代を克明に記録する、貴重な資料、『麗和会雑誌』。それは生徒の手によって作られた。

本校は戦災にも遭わず、開学当初に編さん創刊された『麗和会雑誌』が保存されている。これは浦中をはなれた所から観て述べたものではなく、すべて学内の教員、生徒、あるいはOBの筆からなり、たび重なる講演録も克明に記録されている。

この『麗和会雑誌』は現在、明治34年の創刊号から昭和17年11月、今井清一校長の「追悼号」まで、52巻出されている。初めころは2回の発行であったが、途中周年記念号や合冊号、あるいは発禁、回収号などという運命をもたされ、歴史の証人となっている。

「麗和」とは「浦和」の雅語であるらしいことは早くから言われていた。「スルメ」を「アタリメ」としたり「おわり」を「おひらき」と言ったりして縁起をかつぐ風潮は今よりはるかに強かった明治期において「浦(うら)」は「裏」につながるため消極的に扱われたに違いない。この事情について別項で述べることになると思うが、いつそう言われるようになり、誰がそう言ったかなどの調査は、現在、編集委員会で進行中ではあるが、本周年誌には間に合わないかもしれない。

とりあえず「麗和=浦和」という共通理解を前提として、次に「麗和会」について考えていこう。

◆浦中麗和会

「麗和会」とは、現在のOB会・後援会・生徒会といった、学問そのものを教えること以外の教育活動の組織すべてを含めたものであったようである。

(以後略)。(長島猛人)

◇ ◇ たまには過去を振り返って確認することも大切ですね。「春陽麗和」の四字熟語も…!



成7年刊)